

## IUPAC 2011 国際分析科学会議 (ICAS2011) 開催に関する基本方針

組織委員長 寺部 茂

東日本大震災により多くの方々の尊い命が奪われ、多数の行方不明者もおられ、甚大な被害が生じたことに、心より哀悼の意を表し、被災された方々にお見舞いを申し上げます。被災者の支援活動と被災地復興に日夜懸命に努力されている方々、また、東京電力福島第一原子力発電所事故による非常事態に対してその影響を最小限に留めるための対策に全力を尽くしている方々に深く感謝の意を表します。

このような甚大な被害と原発事故による影響のため、いくつかの国内学会、国際会議が中止されています。一部では諸外国の渡航制限・帰国指示も出され、ICAS2011 の開催はどうなるのかとの質問も多く寄せられています。実行委員会では、国内諮問委員、組織委員のご意見も参考に開催問題について検討した結果、予定通りの日時・場所で開催することにしました。理由は以下の通りです。なお、この方針は日本分析化学会理事会、組織委員会、国内諮問委員会の了承を得たものです。

京都地区では東日本大震災による直接の被害はありません。福島原発の事故による放射能汚染はいまだに拡散しており、深刻な事態を引き起こしております。この汚染拡大が収束する見通しは立っていません。しかしながら、現在までのところ、文部科学省の発表データによれば原発事故による放射能汚染は京都地区にまでは及んでいません。

ICAS2011 の開催目的は、分析科学関連の学術的成果はもちろんのこと、それらを利用した最新の計測科学に関する多数の応用事例を発表・討論し、学問技術の進歩に貢献するとともに、全世界の研究者・技術者の交流と研究レベルの向上を図ることにあります。分析科学は、今回の地震や津波による環境汚染、原発事故による放射能汚染などの計測に関わる科学・技術、計測結果の評価などに関連した分野を多面的に包括しており、ICAS2011 開催の科学的・社会的意義は大きいといえます。福島原発事故が提起する課題に対応して、緊急シンポジウム「放射能汚染に直面する分析科学」を、また、ICAS2011 公開講座でも新しいプログラムを追加する予定です。

ICAS は日本分析化学会が 10 年間に一度開催する大規模国際会議であり、今回は約 1,200 件の発表申込を受けています。被災地の研究者を含め国内諮問委員、組織委員の多くの方々は開催に賛成しております。従って、3 月 11 日以降現在に至る事態のもとにおいてもなお、開催することの意義が大きいと判断しました。

ただし、福島第一原子力発電所の事故がさらに深刻な事態になり、放射能汚染が急速に拡大した場合には、開催を中止します。その際には、速やかにその旨を周知します。